

# 視神経膠腫（ししんけいこうしゅ）

## 視神経膠腫について

視神経膠腫は、視神経や視交叉等に発生する低悪性度の星細胞性腫瘍です。この腫瘍は孤発性で発生することもあるが、神経線維腫症1型（NF1）の患者に関連して発生することもあります（NF1患者の15-20%）。腫瘍の進行は比較的ゆっくりであることが多いですが、腫瘍の大きさにより視覚障害や周囲組織への圧迫による症状が現れることがあります。視神経膠腫は神経膠腫の約2%を占め、発症の平均年齢は5歳で、7割が10歳代、9割が20歳までに発症すると言われています。

## 症状について

視神経膠腫の症状は腫瘍の位置と大きさによって異なり、症状が進行するまで数か月から数年かかる場合があります。

腫瘍の生じる場所により様々な症状が生じ、眼窩部の腫瘍では眼球突出、斜視、眼振、視力低下がみられることがあります。視交叉や視床下部の腫瘍では視力低下が主な訴えとなることが多く、頭蓋内圧亢進や水頭症が併発する場合があります。特に視交叉部や視床下部に腫瘍が及ぶと、10～20%の患者で内分泌異常がみられると言われています。

## 診断について

視神経膠腫の診断は、頭部CT・MRI等の画像検査で行います。

眼窩部や鞍上部に腫瘍を生じることが多く、視神経に腫瘍が生じた場合は視神経が管状に腫大したり屈曲がみられることがあります。画像検査で診断が難しい場合には、必要に応じて生検を行うことがあります。

## 治療について

視神経膠腫の治療法は患者の年齢、腫瘍の位置、NF1 合併の有無等に基づいて決定します。

視機能に異常がみられない場合は経過観察を行い、視機能や腫瘍サイズを定期的にモニタリングして、進行が認められた場合には治療を開始します。多くは化学療法が行われますが、効果が乏しい場合には放射線療法が考慮されることがあります。腫瘍が水頭症や重度の視機能障害を引き起こしている場合には、外科的切除が行われることもあります。

## 執筆者

- 氏名： 安田 小百合
- 所属医療機関： 名古屋大学医学部附属病院
- 診療科： 眼科